

## 讃美歌21 525

## EG 369 T:Johan Franck M:Johan Crüger

- 1 主なるイエスはわが喜び、誉れなり  
久しく王をわれは慕い、待ち望む。  
神の小羊、  
わが花婿なる主を喜ぶ。
- 2 み翼もて、われを覆い、守りたもう。  
何を恐れん、たとひ悪魔脅すとも。  
陰府のちからが われに迫るとも  
主ともにあり。
- 3 別れつげよ、過ぎゆく世の虚しさに。  
別れつげよ、世の誘い、世の誉れ。  
われは求めず 朽ちる世の栄え。  
イエスに頼らん。
- 4 去れ、悲しみ。わが喜び、主は来ます。  
主にありては わが悲しみ、喜びに。  
責めとそしりの世にわれは耐えて、  
主を喜ぶ。

1 Jesu, meine Freude, meines Herzens Weide, Jesu, meine Zier: ach, wie lang, ach lange ist dem Herzen bange und verlangt nach dir! Gottes Lamm, mein Bräutigam, außer dir soll mir auf Erden nichts sonst Liebers werden.

2 Unter deinem Schirmen bin ich vor den Stürmen aller Feinde frei. Lass den Satan wettern, lass die Welt erzittern, mir steht Jesus bei. Ob es jetzt gleich kracht und blitzt, ob gleich Sünd und Hölle schrecken, Jesus will mich decken.

3 Trotz dem alten Drachen, Trotz dem Todesrachen, Trotz der Furcht dazu! Tobe, Welt, und springe; ich steh hier und singe in gar sichrer Ruh. Gottes Macht hält mich in acht, Erd und Abgrund muss verstummen, ob sie noch so brummen.

4 Weg mit allen Schätzen; du bist mein Ergötzen, Jesu, meine Lust. Weg, ihr eitlen Ehren, ich mag euch nicht hören, bleibt mir unbewusst! Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod soll mich, ob ich viel muss leiden, nicht von Jesus scheiden.

5 Gute Nacht, o Wesen, das die Welt erlesen, mir gefälltst du nicht. Gute Nacht, ihr Sünden, bleibet weit dahinten, kommt nicht mehr ans Licht! Gute Nacht, du Stolz und Pracht; dir sei ganz, du Lasterleben, gute Nacht gegeben.

6 Weicht, ihr Trauergeister, denn mein Freudenmeister, Jesus, tritt herein. Denen, die Gott lieben, muss auch ihr Betrübten lauter Freude sein. Duld ich schon hier Spott und Hohn, dennoch bleibst du auch im Leide, Jesu, meine Freude.

「イエスは目をあげて弟子たちを見つめながら、話し出された。「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものだから。いま飢えている者は幸いです。やがてあなたがたは満ち足りるから。・・・しかし、あなたがた富むものは哀れです。慰めをすでに受けているから。いま食べ飽きているあなたは哀れです。やがて飢えるようになるから。いま笑うあなたは哀れです。やがて悲しみ泣くようになるから。・・・」

聖書において、「逆説」を理解することは重要な意味を持っています。同時に、「逆説」を理解できないことが、聖書から人々を遠ざける効果を発揮します。聖書から、「逆説」を発信するだけではいけないのです。「逆説」を理解するために、ルターが語ったように、「なぜ」、「どうして」を、常に問うていいのです。

これに加え、「貧しさ」や「富」について、聖書は、物質的な意味と、精神的な意味に区分していないことを理解すべきです。ルカによる福音書の本日の箇所は、既に、マタイによる福音書において、著者の解釈が加えられ、「心の」貧しい者とか、「義に」飢えかわく者という説明が加えられています（マタイ4:3. 4:6）。

ところが現代の「社会疫学」は、「経済的格差と、精神(心理)的ストレス、そして、身体的な健康と病気の関係を」解き明かしつつあります。同時に、「精神が健康だから、経済的に成功するという仮説は、実証的に否定されつつあります。同時に、「経済格差の拡大が、精神の健康の喪失を媒介し、身体」の健康を損ねる因果関係に、社会的な要因が非常に強く関与している可能性」があります。経済学は、このことに、もっと敏感でなければなりません。

誤解のないように申しますが、イエス様は、経済的に貧しいことが尊いなどとは言っておられません。

聖書の特徴は、人の「弱さ」の重要性を、いろいろな箇所指摘していることと、弱いところに神様が働くことを解き明かしていることです。大事なことは、それがなぜか、どうしてかを理解することだと思ふのです。

どんな時・場所でも構いません。その場を支配した人や、多くの支持を得た人、数が多いことで勝った者でも、勝利したとはみなされません。聖書は、敗北したように見える者(あなた)を、ほめたたえて、慰めているのです。

この逆説は、現代において有効性を失うことはありません。2021年4月の新型コロナウイルスの第四波(感染力の強い変異株)の感染拡大は、急速に回復してきた人の移動や経済活動に、冷水をかける深刻な事態です。

過去1年間、公衆衛生の立直し、医療現場と人材の強化、それに、ワクチン開発や調達の強化が議論されながら、日本社会は、いずれも「敗北」したように見えます。しかし、私たちが自分の弱さをどこまで学んだのかが重要なことなのだと思ひます。

2021年度4月に、入学した一年生は、多くの対面授業の実施とともに、新しい友人との出会いの機会を得られたと思います。

しかし、変異株のウイルスが若い人たちに感染及び重症化をもたらすリスクが認識され、キャンパス・ライフは、大きく変化せざるを得ません。

2年生と3年生で、留学を希望して、努力し準備してきた学生の皆さんに、失望が広がりかねません。

その背景として、日本のワクチン接種計画の遅れが影響を及ぼしていることは明らかです。ワクチン接種には、国や地域による格差が如実に表れています。中国とアメリカの接種の先行が、経済活動の再開にもプラスの影響をもたらしています。

EU(欧州連合)の場合、域内のワクチンの公正な配分を目指していますが、感染拡大に歯止めがかからず、行動制限が強化された都市や地域もあります。

インドとブラジルでは、爆発的な(変異株の)感染拡大から、これが、世界全体の感染抑制の見通しに悲観的な影響を与えています。

ところが、ワクチン接種の進んだ国・地域で、国境を超える移動を再開する動きは、オーストラリアとニュージーランド、シンガポールと香港などでも、具体化されつつあります。

聖書におけるイエス様のことは、現代人には、ほとんど理解できないものだと思います。しかし、イエス様の語る「逆説」は、私たちの「弱さ」への自覚を強めるだけではないのです。「弱さ」への自覚は、未来に向けて生きる基礎であり、人生のビジョンのスタートとなり得るものなのです。

繰り返しますが、現代人である私たちは、物質的及び精神的な豊かさを、分離して考えます。しかし、聖書は心と体を一体に考えています。これは、現代では奇妙ですが、実は、真実をとらえる上で大事な視点です。

経済学を、個人や企業の利益だけから、とらえてはなりません。アダム・スミスの時代に、人々の経済的な裕福さとは関係なく、疫病の危機にさらされていました。そうしたなかでは、一人ひとりの努力が、社会全体の経済的な豊かさをもたらすビジョンが生まれたと思われます。現代では、感染症も、経済の広がりや相互依存関係も、当時と大きく異なることに、注意してください。

それにも関わらず、「いま」飢えている又は悲しんでいるようなあなたには、現実に生きている世界と異なる世界を思い描くことができることこそ貴重なのです。現状をただ維持し守ろうとする人には、没落しかありません。皆さんが、この二つの世界を知り得たときに、イエス様の「逆説」は、あなたの生きる力となり、経済が生き返る力になるでしょう。